

「接続料の算定等に関する研究会（第72回）」 ヒアリング資料



2023年 5月9日

予測の算定方法について

予測接続料について

- 予測接続料は2019年度より導入され、毎年度算定の精緻化に努めているところ、予測値との差異について、①②それぞれ比較する



① 予測値・実績値の比較

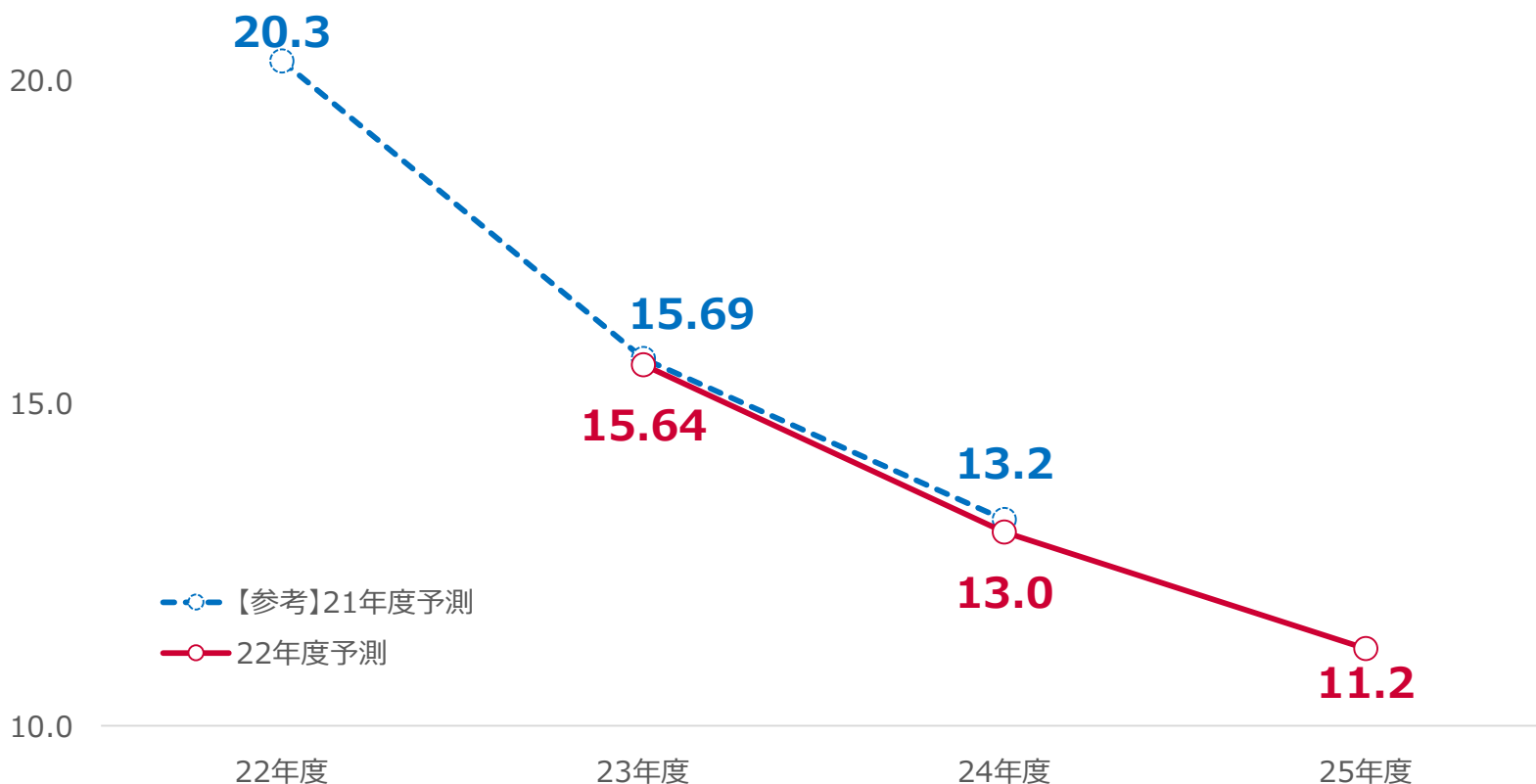
- 比較の対象となる2020年度算定は、トレンドではなく、**見込みを用いた算定**を採用
→見込みを用いたことにより、**予測値・実績値の差異が縮小**

	予測値 (20年度算定)	21年度実績値	差異 (20年度算定・21年度実績)	前回における差異 (19年度算定・20年度実績)
	構成員限り			
原価 (億円)				
利潤 (億円)				
需要 (Gbps)				
接続料単価 (万円/10Mbps・月)	28.3	27.0	▲4%	▲10%

② 予測値・予測値の比較

- 2022年度算定の予測接続料は、最新の見込みを用いることで、**2021年度算定の水準より低廉化**

(単位：万円/10Mbps・月)



② 予測値・予測値の比較

- 2022年度算定は、前回と比較して、**原価・需要はほぼ同水準、利潤はβ低減により減少**すると見込む

	2022年度算定 (今回)			2021年度算定 (前回)			差異	
	23年度	24年度	25年度	22年度	23年度	24年度	23年度	24年度
	構成員限り							
原価 (億円)								
利潤 (億円)								
需要 (Gbps)								

予測接続料の情報開示

- 今年度は、見込みの考え方に加えて、**予測値・実績値及び予測値・予測値の差異の理由についても積極的に情報開示**を実施する

19年度算定

20年度算定

21年度算定

22年度算定

算定方法

過去の実績値
からの推計
(トレンド)

算定時点で判明している要素を反映（見込み）

情報開示

算定方法を開示

見込みの考え方
を整理して開示

追加

- ① 予測値・実績値
- ② 予測値・予測値
差異の理由を開示

【参考】予測接続料における見込みの考え方

項目		構成員限り	予測に用いた算定方法に関する情報
回線容量単位	第二種指定 設備管理運営費		
	正味固定 資産価額		
	需要		

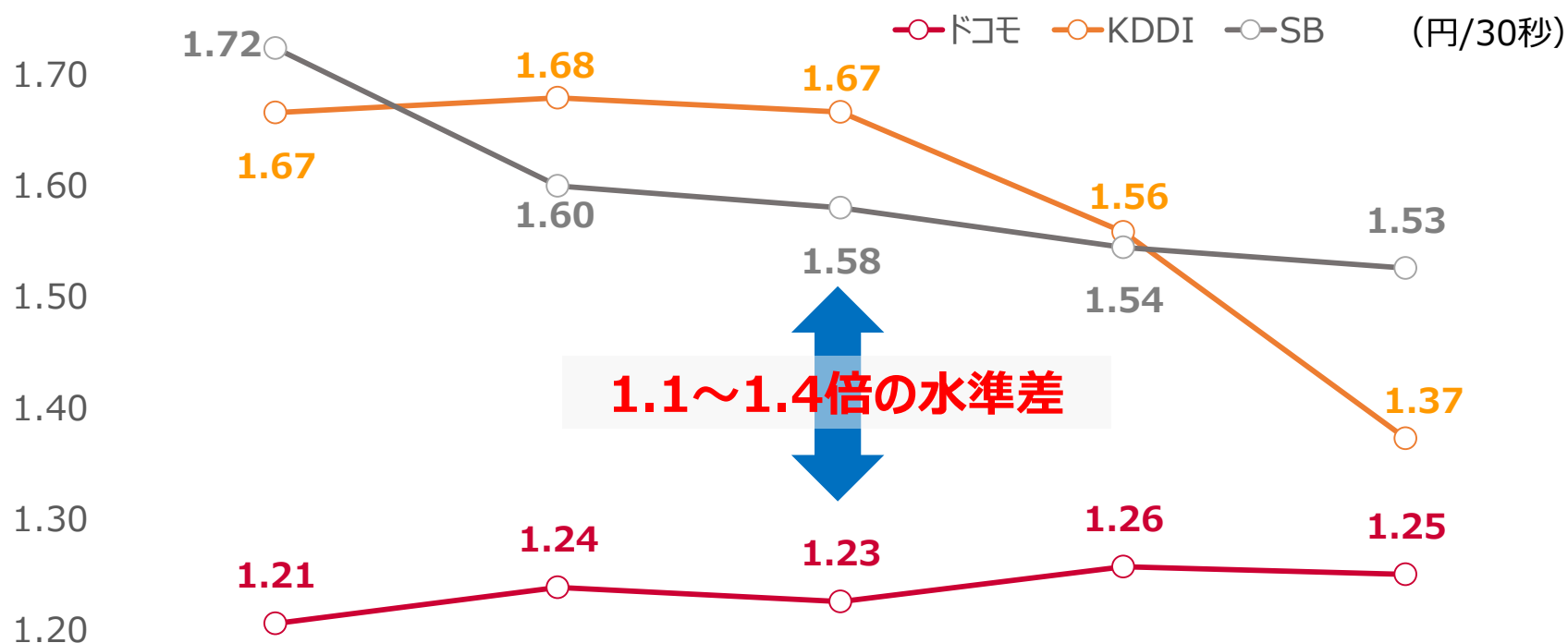
【参考】予測値・実績値及び予測値・予測値の差異

項目				接続料単価 (円/10Mbps)	差異 (B／A－ 1)	差異が生じた理由
回線容量単位	予測値と実績値の差異	A	予測値 (2021年度利用分)	283,859	▲4.8%	構成員限り
		B	実績値 (2021年度利用分)	270,243		
	予測値と予測値の差異	A	前年度（2021年度）予測値 (2023年度利用分)	156,976	▲0.3%	
		B	今年度（2022年度）予測値 (2023年度利用分)	156,446		

原価の適正性確保について

モバイルにおける音声接続料

- モバイル事業者ごとの音声接続料の水準は、一部において依然として差分が生じている状況



適用年度		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
水準差 (倍)	対KDDI	1.3	1.4	1.4	1.2	1.1
	対SB	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2

役務別配賦基準の考え方

- 当社は、接続会計規則を踏まえつつ、設備の態様に合わせて配賦基準を設定
- トラヒックとの関連性が高いネットワーク資産は、取扱量比（トラヒック比）等により配賦

接続会計規則に掲げる基準（原則）

二以上の種類の役務に関連する固定資産

回線数比又は取扱量比

当社における配賦（2021年度接続会計）

資産区分	帳簿価額 【億円】	音声伝送役務 【億円】	データ伝送役務 【億円】	音声/データ 比率	主な配賦基準*1
機械設備	11,669 (35%)	800	10,868	7 : 93	取扱量比
空中線設備	5,383 (16%)	163	5,220	3 : 97	取扱量比
線路設備	279 (1%)	5	273	2 : 98	取扱量比
土木設備	126 (0.4%)	2	124	2 : 98	取扱量比
建物	2,445 (7%)	169	2,276	7 : 93	NW資産額比*2
土地	1,965 (6%)	118	1,847	6 : 94	NW資産額比
無形固定資産	7,277 (22%)	1,604	5,672	22 : 78	NW資産額比
合計	32,975 (100%)	4,231	28,742	13 : 87	

*1 直課やトラヒックに連動しない固定資産については、それぞれに応じた適切な配賦基準を設定

*2 ネットワーク資産（機械設備、空中線設備、線路設備、土木設備）の加重平均により算定

固定資産の配賦

- トラヒックに連動しない固定資産は、それぞれに応じた適切な配賦基準を設定

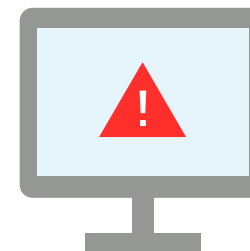
VoLTE交換機
(機械設備)



サービス制御系装置
(機械設備)



障害対策システム
(無形固定資産)



構成員限り

考え方

考え方

考え方

今後の検討課題

- 配賦見直しの検討にあたっては、その目的を明確にするとともに、諸課題について整理する必要がある

目 的

- 接続会計は、毎年度会計監査を受け整理・公表しているところ、継続性の原則の観点からも、配賦基準を見直す場合には、その目的を十分に議論し、明確にする必要があるのではないか

方 法

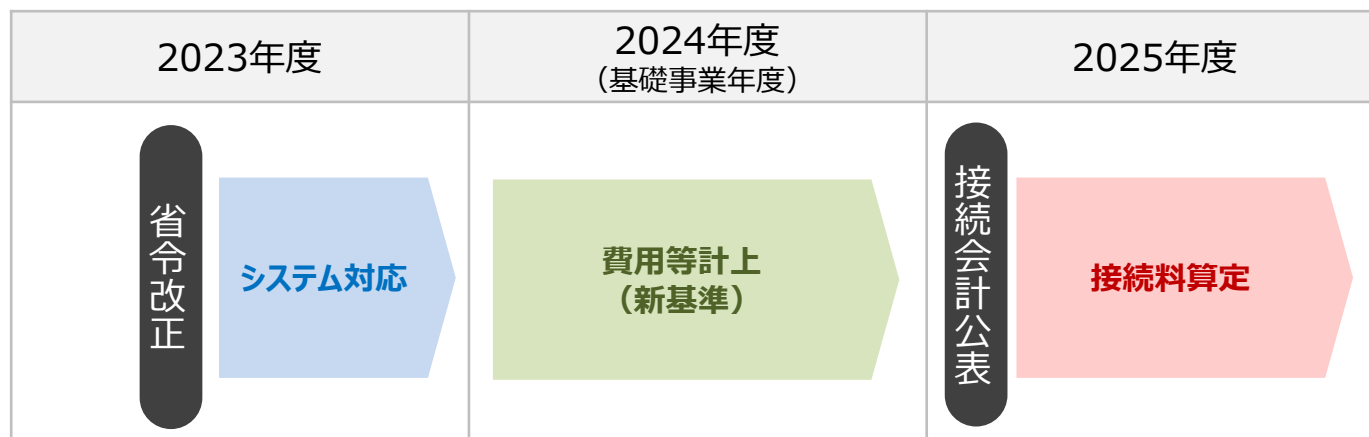
- トラヒック比をすべての資産に対して適用することは適切ではなく、各社の設備態様に合わせた配賦基準を採用すべきではないか
- 音声/データのトラヒック比をそのまま当てはめるのではなく、QoSを考慮することについて検討・整理が必要ではないか

今後の検討課題

進め方

- 配賦基準の見直しに係るシステム対応や会計整理を行うための、**十分な準備期間を設ける必要があるのではないか**

<イメージ>



その他

- 非指定事業者との間の接続料収入差が拡大**することについて、公正競争上の観点から、必要な措置を講じるべきではないか
- 将来のIP化を踏まえ、**ビル&キープ方式の導入や非指定事業者の接続料の考え方を同時に議論・整理すべき**ではないか

各論点に対する当社意見

予測の算定方法に関する論点

カテゴリ	論点	当社意見
予測算定方法	□ パラメータ設定の考え方については、事業全体の傾向等の抽象的な見込みではなく、より具体的かつ細かな粒度での見込みを示すことにより、見込みとパラメータの設定との間の因果関係を明確化する必要があるのではないか。	当社は、スライド7に記載の内容について、具体的かつ細かな粒度での見込みの考え方をあらかじめ整理し、総務省及び接続事業者へご提示・ご説明しております。
	□ 「予測値と実績値の差異」及び「予測値と予測値の差異」が発生している場合においては、差異が発生する要因の分析を行い、当該要因が一過性のものでないと考えられる場合には、パラメータ設定の考え方に反映させることが必要ではないか。	当社は、スライド8に記載の内容について、差異が発生する要因の分析をあらかじめ整理し、総務省へご提示・ご説明しております。
	□ 「予測値と実績値の差異」及び「予測値と予測値の差異」に関するMVNOへの情報開示については、今後も積極的な情報提供が必要であり、引き続きMNOによる情報開示状況を確認することが適当ではないか。	当社は、MVNOの事業運営における予見可能性を高める観点から、予測に用いた算定方法及び見込みの考え方に加えて、スライド8に記載の予測値と実績値の差異及び予測値と予測値の差異の理由についても積極的に情報開示を行う考えです。

原価の適正性確保に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
原価	[ステップ 2・3] □ ステップ 2・3 については、引き続き毎年度の届出において各社の考え方及び方法を確認し、一貫性が担保されていることを確認することが適当ではないか。 □ 各費用項目を直課/配賦とする理由及び配賦とした場合の配賦比率の算出方法については、備考欄を用いて可能な範囲で説明することが適当ではないか。	• 当社は、毎年度、接続料の届出前に、総務省へ算定方法や考え方の説明を実施しております。 • また、接続料算定の適正性を確保する観点から、算定方法や考え方に変更があった場合には、その旨とその理由を併せて説明する考えです。

原価の適正性確保に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
原価	[ステップ1] □ ステップ1の音声伝送役務/データ伝送役務間の費用配賦に関する考え方について確認・検証を行うことが適切ではないか。例えば、固定資産価額比については、音声/データ伝送役務のトラヒック比に基づいて算出することについて検討してはどうか。	- 当社は、接続会計規則に基づき、固定資産のうち大宗を占めるネットワーク資産（機械設備、線路設備、空中線設備、土木設備）について、取扱量比（トラヒック比）等を用いた配賦を行っています。 - そのうえで、すべての資産に対してトラヒック比を適用することは適切ではなく、トラヒックとの関連性の高い資産を対象とする等、各社の設備態様に応じて適切な配賦基準を設定することが適切と考えます。 - また、配賦基準にトラヒック比を用いる場合においても、音声トラヒックは、その品質確保のためにQoSにより優先的な通信を行っている点を考慮することが適切と考えます。

原価の適正性確保に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
原価	[ステップ1] □ ステップ1における音声伝送役務/データ伝送役務の費用計上の考え方に変更が行われた場合、音声伝送役務/データ伝送役務に計上される費用が変動し接続料水準への影響が想定される。この場合、それぞれの接続料の負担事業者への影響についてどのように考えるか。例えば、トラフィック比に基づいて固定資産価額比を算出した場合、ステップ1におけるデータ伝送役務の原価の配賦割合が現状よりも高くなることが想定されるが、データ伝送役務に係る接続料は一貫して逡減傾向にあることから、仮に原価が増加したとしても接続事業者及び利用者への影響は限定的と考えられるのではないか。	- モバイル事業者間の公正性の確保の観点から、音声接続料について、MNO間の水準差が縮小する方向の見直しについては賛同します。 - 一方、非指定事業者がLRICミラー等を接続料に設定している場合、収支差が拡大する懸念があるため、公正競争上の観点から、必要な措置を講じる必要があると考えます。 - 従って、将来のIP化を踏まえ、ビル&キープ方式の導入や非指定事業者の接続料の考え方を同時に議論・整理すべきと考えます。 - なお、データ接続料は逡減傾向にあるものの、データ伝送役務の原価の配賦割合が増加するため、接続事業者及び利用者への影響は限定的であると断言はできないと考えます。

利潤精緻化に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
利潤	❑ 「投資その他資産」及び「貯蔵品」については、引き続き予測の対象とする必要は認められないものの、今後もレートベース全体に占める割合の変化を観測し、一定の割合を超過した場合には予測の対象への追加を検討することが適当ではないか。	• 「投資その他資産」及び「貯蔵品」の 2 項目について、当社のレートベースに占める割合は以下の通りです。 <2023年度適用の予測接続料> 【回線容量単位】 構成員限り ・投資その他資産： ・貯蔵品 • 当社においては、レートベースに占める割合は僅少であることから、予測接続料に与える影響は軽微であると考えます。
	❑ 複数事業者で接続料の共同算定をする場合については、移動電気通信役務に係る正味固定資産価額の総額が明らかとなるように様式の追加を行うことが適当ではないか。	—
	❑ 原価の精緻化に向け、「固定資産価額比」についてトラヒック比に基づいて算出すべきであると考えられることを踏まえれば、レートベースの大宗を構成する「正味固定資産価額」についても同様の考え方に基づいて音声・データ間で配賦することが適当ではないか。	(原価に関する論点に対する意見と同様)

需要の適正性確保に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
需要	❑ 各社の設備運用方針については引き続き一貫性が確保されているかとの観点から状況を注視することが適当ではないか。また、今次提出のあった設備運用方針に追加的に記載すべき内容について引き続き議論が必要ではないか。 ❑ 「原価と設備容量の関係」及び「冗長分も含めた設備容量と最繁時トラヒックの関係」については、現時点で問題は存在しないと考えられるものの、今後も引き続き確認し、他社に比べて著しく設備容量が過大であると考えられる社が現れた場合については、設備容量の設定方法について確認する等の措置が必要ではないか。 ❑ 音声接続料の需要の算定方法については、各社で大きな違いがなく現時点では特段の問題は生じないと考えられるところ、今後算定の考え方に変更が生じた場合には、総務省への報告を求めることが適当ではないか。	• 当社は、需要の適正性の確保に係る各種データを総務省へご提示・ご説明しております。今後算定の考え方に変更が生じた場合には、その旨とその理由を併せて説明する考えです。